

学校における働き方改革実態調査結果分析等業務委託仕様書

1 委託業務の名称

学校における働き方改革実態調査結果分析等業務

2 委託期間

契約日から令和9（2027）年2月26日（金）まで

3 目的及び適用範囲

本業務は、県教育委員会（以下「甲」という。）が実施する実態調査（学校調査及び教職員調査）について、各学校の取組状況や課題、教職員の勤務実態等の結果を多面的・多角的に分析し、今後の業務改善に向けた教育政策推進の基礎資料とすることを目的とする。

本仕様書は、当該業務を受託する者（以下「乙」という。）の業務について必要な事項を定めるものである。

4 委託業務の内容

乙は、甲と随時協議の上、「5 業務スケジュール」で示す期日までに、次に掲げる業務を行うこと。また、業務に当たっては、学校における働き方改革及びデータサイエンスに関する専門的知見を基に行うこと。

ただし、本業務における「クロス集計」とは、複数の設問項目を組み合わせて行う集計及びクロス集計表の作成をいい、特定の属性条件等による抽出又は層別を行ったものや、3変数以上の設問項目を用いたものを含む。（別添例参照）また、これらは分析目的に応じて適宜組み合わせるものとする。

(1) 調査結果の集計

| 区分 | 内容 |
|----------------|---|
| 基礎データ・集計データの作成 | <p>○甲から提供する学校調査、教職員調査それぞれの回答データについて、データクレンジングを行い、基礎データ（任意様式）として次に掲げる各種基礎データを作成し、電子媒体により甲に提出すること。</p> <p>「基礎データ（全体版）」：全回答データをクレンジングしたもの</p> <p>「基礎データ（市町別）」：基礎データ（全体版）から市町ごとに抽出し個別ファイル化したもの（25ファイル）</p> <p>「基礎データ（事務所別）」：基礎データ（全体版）から教育事務所ごとに抽出し、個別ファイル化したもの（7ファイル）</p> <p>「基礎データ（県立学校版）」：基礎データ（全体版）から県立学校のみを抽出したもの</p> <p>○基礎データをもとに、次に掲げる各種集計データ（任意様式）を作成し、電子媒体により甲に提出すること。</p> <p>「単純集計データ」：各設問の回答結果を集計したもの</p> <p>「学校集計データ」：学校別に各設問の回答結果を集計したもの</p> <p>「市町集計データ」：県内25市町別に各設問の回答結果を集計したもの</p> <p>「校種別集計データ」：校種別※1に各設問の回答結果を集計したもの</p> <p>○基礎データをもとに、「時間外在校等時間」、「仕事と仕事以外の生活バランスに関する項目」、「教材研究や授業準備、児童・生徒指導に充てる時間に</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>関する項目」、「自分の仕事が生徒の成長に繋がっていることへの実感に関する項目」等について、学校調査と教員調査の横断含め各設問とのクロス集計を実施し、「クロス集計データ」（任意様式）を作成し、電子媒体により甲に提出すること。また、クロス集計の具体的な項目等については、乙が甲へ事前に提出し協議すること。</p> <p>○上記の各種データ作成に当たっては、甲から提供する過年度データを用い、報告書作成時に比較が可能となるよう、比較用データとして整理すること。</p> |
|--|--|

※1 市町立小学校（義務教育学校前期課程含む）、市町立中学校（義務教育学校後期課程含む）、県立中学校、公立中学校（市町立・県立）、県立高校（全日制）、県立高校（定時制・通信制）、特別支援学校 計7種

(2) 調査結果の分析及び報告書1の作成

| 区分 | 内容 |
|-------------|---|
| 分析及び報告書1の作成 | <p>○調査結果の分析に当たっては、基礎データ、各種集計データ、クロス集計データ及び甲から提供する過年度データをもとに、過年度との比較を実施するとともに、必要な考察を行い、本県の特長や課題、解決策の提案等を整理すること。</p> <p>○次により、分析結果を踏まえ、報告書1（任意様式）を作成し、電子媒体により甲に提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書1として、以下を作成すること。 <ul style="list-style-type: none"> 「報告書1（県全体版）」：県全体の状況を分析したもの 「報告書1（県全体概要版）」：県全体版の内容を分かりやすく短時間で把握できるよう整理したもの 「報告書1（市町版）」：全市町の状況について、市町ごとの違いが分かるよう分析したもの 「報告書1（市町概要版）」：市町版の内容を分かりやすく短時間で把握できるよう整理したもの ・報告書1は、設問項目毎の単純集計結果及びクロス集計による分析結果を含めた内容とすること。 ・自由記述は、乙が甲と協議の上、回答内容に応じて類似する意見等を分類し、分類ごとの特徴を分析した上で、報告書1に記載すること。 ・体裁については、図表やグラフ等によるほかレイアウトにも配慮し、視覚的に分かりやすいものとする。 ・県HP等において公表されること及び県主催会議(11月予定)における会議資料として活用されることを前提として作成すること。 |

(3) 調査結果の分析及び報告書2の作成

| 区分 | 内容 |
|-------------|--|
| 分析及び報告書2の作成 | <p>○県主催会議（11月予定）での意見等を踏まえ、報告書1の修正や追加のクロス集計を行い、その内容を報告書1に追加するとともに、追加のクロス集計を行った場合は「クロス集計データ（追加）」を作成し、次に掲げる報告書2等と併せて、電子媒体により甲に提出すること。</p> |

| | |
|--|--|
| | 「報告書2（県全体版）」：県全体の状況を分析したもの 「報告書2（県全体概要版）」：県全体版の内容を分かりやすく短時間で把握できるよう整理したもの 「報告書2（市町版）」：全市町の状況について、市町ごとの違いが分かるよう分析したもの 「報告書2（市町概要版）」：市町版の内容を分かりやすく短時間で把握できるよう整理したもの 「クロス集計データ（追加）」：追加で行ったクロス集計のデータ |
|--|--|

5 業務スケジュール

甲と乙は以下のスケジュールを前提に調査及び集計・分析を円滑に実施するとともに、契約期間内に業務を完了するよう必要な対応をとること。

- (1) 甲から乙へ実態調査の過年度データの提供
令和8（2026）年8月上旬頃目途
- (2) 乙から甲へクロス集計の具体的な項目等について事前提出
令和8（2026）年8月上旬頃目途
- (3) 甲から乙へ実態調査の回答データの提供
令和8（2026）年8月下旬頃目途
- (4) 乙から甲へクレンジング後の基礎データの提出
令和8（2026）年9月11日（金）頃目途
- (5) 乙から甲へ集計データ（「単純集計データ」「学校集計データ」「市町集計データ」「校種別集計データ」）の提出 ※クロス集計データを除く
令和8（2026）年9月18日（金）頃目途
- (6) 乙から甲へクロス集計データ及び報告書1の提出
令和8（2026）年9月28日（月）頃目途
- (7) 乙から甲へクロス集計データ（追加）及び報告書2提出
令和8（2026）年12月14日（月）頃目途

6 成果品の提出

乙は以下の形式により、甲へ成果品を納品すること。

| 区分 | 成果品名（ファイル名） | 納品形式 | 備考 |
|----------------|--|--------------|----------------------------|
| 基礎データ・集計データの作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎データ（全体版） ・基礎データ（市町別） ・基礎データ（事務所別） ・基礎データ（県立学校版） ・単純集計データ ・学校集計データ ・市町集計データ ・校種別集計データ ・クロス集計データ（グラフや図表を含む） | Excel形式 | 電子データを保存したメディア（USBメモリ等）を提出 |
| 分析及び報告書1の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・報告書1（県全体版） ・報告書1（県全体概要版） ・報告書1（市町版） ・報告書1（市町概要版） | PowerPoint形式 | |

| | | | |
|-----------------|--|--------------|--|
| 分析及び報告書 2の作成 | ・報告書2（県全体版） ・報告書2（県全体概要版） ・報告書2（市町版） ・報告書2（市町概要版） | PowerPoint形式 | |
| | ・クロス集計データ（追加） | Excel形式 | |

7 その他

(1) 再委託について

乙は、本業務の全部又は大部分を一括して第三者に委託し、又は請け負わせることは出来ない。ただし、本業務を効果的・効率的に実施する上で必要な場合は、予め甲と協議の上、業務の一部を再委託することができる。

(2) 守秘義務について

乙は、本業務を実施する上で知り得た情報を他に漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。また、本業務終了後も同様とする。

(3) 業務実施体制について

乙は、契約締結後速やかに、業務実施責任者氏名を含む業務実施体制について甲に報告すること。なお、やむを得ない場合を除き、業務実施責任者を変更しないこと。

(4) 仕様書にない事項の取扱い

この仕様書に定めのない事項又は仕様書の内容に疑義が生じた場合は、甲と乙が協議の上、その取扱いについて定めるものとする。

(5) 仕様書の記載事項の変更

甲は、業務実施過程においてこの仕様書の記載内容に変更の必要が生じた場合は、乙に協議を申し出ることがある。この場合、乙は、委託料の範囲内において仕様の変更に応じること。

(6) 著作権の取扱い

本業務における調査結果データ、分析資料、成果物及び業務中に作成した資料など、甲に提出した資料の所有権及び著作権は、すべて甲に帰属するものとする。

【参考資料】

○甲から乙に提供する調査の概要

| 区 分 | 内 容 |
|--------|--|
| 調査対象 | 県内の全公立学校（約 570 校）と、そこに所属するフルタイムの教職員（約 15,000 人） |
| 実施時期 | 7月1日（水）から7月28日（火） |
| 回答形式 | Microsoft Forms での回答 |
| 調査設問数等 | 学校調査：30項目（自由記述を含む） 教職員調査：38項目（自由記述を含む） （県が令和7（2025）年度に実施した「学校における働き方改革推進プラン（第2期）」に基づく実態調査の一部項目を修正。） ※ 設問項目は、次ページ参照 |

○「学校における働き方改革推進プラン（第2期）」に基づく実態調査（栃木県教育委員会）

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/2023jittaityousakekka1.html>

○「学校における働き方改革推進計画」（栃木県教育委員会）

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/gakkouniokeruhatarakikatakeikaku.html>

学校における働き方改革実態調査 設問

令和8(2026)年度「学校における働き方改革推進計画」に基づく実態調査【学校回答】

1. 学校種を選んでください。
 - 小学校及び義務教育学校前期課程
 - 中学校及び義務教育学校後期課程
 - 県立中学校
 - 高等学校（全日制）
 - 高等学校（定時・通信制）
 - 特別支援学校

2. あなたの学校のある市町を選んでください。（市町立の学校のみ）の回答となります）
 - 01 宇都宮市 ～ 25 足利市

3. あなたの学校名を選んでください。
（宇都宮市を選んだ場合）
 - 101 宇都宮市立中央 ～

4. 貴校の調査対象となる教職員の人数は何人ですか。数字（半角）で答えてください。
（対象者：校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭（学校勤務の方のみ）、
助教諭、養護助教諭、講師、実習教員、寄宿舍教員、事務職員（県立学校の司書を含む）、
学校栄養職員（学校勤務の方のみ）、学校看護師、技能労務職員）
※ どの職種においても常勤（週5日フルタイム）の方を対象とします。
 - 人

5. 貴校では、最終退勤時刻を設定し、時間を意識した働き方を推進していますか。
 - している
 - していない

6. 貴校では、最終退勤時刻を何時に設定していますか。
 - ～19時00分
 - 19時01分～20時00分
 - 20時01分～21時00分
 - 21時01分～22時00分
 - 22時01分～23時00分
 - 23時01分～24時00分
 - 設定していない

7. 貴校では、学校や学年単位など、学校の実情に応じて、定時退勤日を設定し、徹底していますか。
 - 設定し、徹底している
 - 設定しているが、徹底はしていない
 - 設定していない

8. 貴校では、退勤時刻を意識して、その時刻に間に合うよう業務を精選・効率化するという意識が定着していますか。

- 定着している
- 定着していない

9. 貴校では、朝、児童生徒が校内に入れる時刻は、教職員の勤務時間内になっていますか。

- 勤務時間内になっている
- 勤務時間内になっていない

10. 貴校では、少なくとも45分の休憩時間を勤務時間内に確保できていますか。(手待ち時間は休憩時間には含まれません。)

※ 手待ち時間…使用者の指示があれば直ちに作業に従事しなければならないといった待機時間を指します。労働基準法34条第3校では「使用者は、(中略)休憩時間を自由に利用させなければならない。」ということが規定されており、形式上の休憩時間であっても業務と見なされる状態にあった場合は、使用者は、別途休憩を取得させる必要があります。

- 確保できている
- 確保できていない

11. 貴校では、勤務間インターバル(終業から始業までに11時間以上の継続した休息時間を確保すること)を意識した出退勤となっていますか。

- なっている
- なっていない

12. 貴校では、先に退勤することへの抵抗感が低減するような取組を行っていますか。

- 行っている
- 行っていない

13. 貴校では、例えば、教職員間で業務の在り方や見直しについて話し合う場を設けるなど、業務の適正化について意見しやすい雰囲気づくりに努めていますか。

- 努めている
- 努めていない

14. 貴校では、教職員が何の業務にどれだけ時間をかけているかを一定期間記録し、それを基に改善すべき業務の洗い出しや業務改善の効果検証を行っていますか。

- 行っている
- 行っていない

15. 貴校では、一つ一つの業務について、業務の適正化という観点から「必須の業務ではない」と判断したものについて、積極的に削減や簡素化が図られていますか。

- 図られている
- 図られていない

16. 【質問15で「図られている」と答えた学校のみ回答してください。】

必須ではないと判断し、削減や簡素化が図られた業務を3つ以内で具体的に記入してください。(例：朝の学習や部活動の朝練習をなくした。土曜授業を廃止した。)

※自由記述

| |
|--|
| |
|--|

17. 貴校では、教職員評価制度を積極的に活用し、教職員一人一人の業務改善への意識や意欲を高めていますか。

- 高めている
- 高めていない

18. 貴校では、校務分掌等における業務分担の平準化が図られていますか。

- 図っている
- 図っていない

19. 管理職は、1か月当たりの時間外在校等時間が80時間を超過した教職員がいた場合は、学校全体の課題として捉え、改善策の検討を実施していますか。

- 実施している
- 実施していない

20. 貴校では、業務改善を推進する委員会を校務分掌に位置付けていますか。

(既存の委員会、会議等に位置付けることも可能)

- 位置付けている
- 位置付けていない

21. 貴校では、衛生委員会または既存の校内委員会を活用し、教職員の健康障害防止や健康保持増進の対策等の話し合い(意見交換や審議)を何回行いましたか。

- 0回
- 1回
- 2回
- 3回
- 4回以上

22. 貴校では、教職員一人一人の事情に配慮した声かけを行うなど、休暇を取得しやすい雰囲気の醸成に努めていますか。

- 努めている
- 努めていない

23. 貴校では、教職員の働き方改革について保護者や地域の理解と協力を得るため、PTA総会・学校だより・HP等を通して、働き方改革の進捗状況を保護者や地域にも伝える工夫をしていますか。

- している
- していない

24. 貴校では、教職員の働き方改革について、学校評議員会や学校運営協議会などで話し合っていますか。

- 話し合っている
- 話し合っていない

25. 貴校では、業務改善に向けた地域・保護者・関係機関との連携として、以下に挙げた取組を行っていますか。(複数回答可)

(参考) 本選択肢は、「学校・教師が担う業務に係る3分類」に基づいています。

https://www.mext.go.jp/content/20231010-mxt_oseisk02-000030032_6.pdf

- 登下校に関する対応(地域ボランティア等)
- 放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応(P T A、自治会等)
- 学校徴収金の徴収・管理(事務職員が一括して管理等)
- 地域ボランティアとの連絡調整(学校運営協議会等の活用等)
- 調査・統計等への回答等(事務職員等)
- 児童生徒の休み時間における対応(輪番、地域ボランティア等)
- 校内清掃(輪番、地域ボランティア等)
- 部活動(部活動支援員等)
- 給食時の対応(栄養教諭等との連携等)
- 授業準備(サポートスタッフの参画等)
- 学習評価や成績処理(サポートスタッフの参画等)
- 学校行事の準備・運営(事務職員との連携、一部外部委託等)
- 進路指導(事務職員や外部人材との連携・協力等)
- 支援が必要な児童生徒・家庭への対応(専門スタッフとの連携・協力等)

26. 貴校では、部活動(小学校における部活動に類する活動を含む)を設置していますか。(「設置していない」を選択した場合は質問30へ飛びます。)

- 設置している
- 設置していない

27. 貴校では、※「栃木県学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」に基づいた部活動の活動時間・休養日を把握し、遵守・徹底していますか。

(※1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日(学期中の週末を含む。)は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。週2日間の休養日を設ける。)

(参考)「栃木県学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」(令和6年3月栃木県教育委員会)10ページ参照

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m12/bukatsu/documents/20240313171928.pdf>

- 徹底している
- 徹底していない

28. 教職員を部活動顧問とする場合には、他の校務分掌や本人の抱える事情等を勘案した上で、部活動開始・終了時刻の繰上げ等活動時間を教職員の勤務時間内で適切に設定するなどの工夫を行い、教職員の負担が過度とならないよう十分に留意していますか。
- 留意している
 - 留意していない
29. 貴校では、部活動（小学校における部活動に類する活動を含む）毎月の活動計画等をホームページで公表するとともに、活動実績の確認等により、学校部活動の活動内容を把握し、教職員の負担が過度とならないよう持続可能な運営体制が整えられていますか。
- 整えられている
 - 整えられていない
30. 勤怠管理システム等により、土日等の勤務について客観的な方法で出退勤時刻を把握していますか。「客観的方法」の客観とは、タイムカードや、勤怠システム等のほか、下記も含まれます。
- ・ 教師が学校外の業務に直行又は直帰する場合であっても、可能な限り客観的な方法により把握することが求められます。校外学習や修学旅行等に関する引率業務については、通常は出張として必要な処理が行われ、また、その実施に当たって行程表等を事前に管理職が了解していると考えられますので、行程表や事後の出張復命書等をもって外形的に把握が可能であると考えられるため、客観的方法に含まれます。
 - ・ 部活動に係る引率業務についても、勤務時間内の場合は、通常は出張として必要な処理が行われていると考えられることから、出張復命書や行程表等をもって計測が可能であり、所定の勤務時間外の場合は、特殊勤務手当（部活動手当）の申請書や活動記録等をもって外形的に把握が可能と考えられるため、客観的方法に含まれます。
- 把握している
 - 把握していない

令和8(2026)年度「学校における働き方改革推進計画」に基づく実態調査(教職員回答)

1. 学校種を選んでください。
 - 小学校及び義務教育学校前期課程
 - 中学校及び義務教育学校後期課程
 - 県立中学校
 - 高等学校(全日制)
 - 高等学校(定時・通信制)
 - 特別支援学校

2. あなたの学校のある市町を選んでください。(市町立の学校のための回答となります)
 - 01 宇都宮市 ~ 25 足利市

3. あなたの学校名を選んでください。
(宇都宮市を選んだ場合)
 - 101 宇都宮市立中央小学校 ~

4. あなたの性別を選んでください。
 - 男性
 - 女性
 - 回答しない

5. あなたの年齢を選んでください。
 - 30歳以下
 - 31~40歳
 - 41~50歳
 - 51~60歳
 - 61歳以上

6. 経験年数(臨時採用等、学校での勤務経験がある者は、その期間も含む)を選んでください。
 - 5年以下
 - 6~10年
 - 11~20年
 - 21~30年
 - 31年以上

7. あなたの職名を選んでください。
 - 校長
 - 副校長、教頭
 - 主幹教諭
 - 教諭
 - 養護教諭
 - 栄養教諭(学校勤務のみ)
 - 助教諭(常勤のみ)

- 養護助教諭
- 講師(常勤のみ)
- 実習教員
- 寄宿舍教員
- 事務職員(県立学校の司書を含む)
- 学校栄養職員(学校勤務のみ)
- 学校看護師(常勤のみ)
- 技能労務職員

8. 学級・ホームルーム担任(正担任)の有無を選んでください。

- 担任をしている
- 担任をしていない

9. 部活動(小学校における部活動に類する活動を含む)の担当の有無を選んでください。(「部活動の担当はない」を選択した場合は質問16へ飛びます)

- 正顧問又は副顧問をしている。
- 部活動の担当はない

10. 部活動(小学校における部活動に類する活動を含む)の担当を選んでください。(複数回答可)

- 運動系部活動の正顧問
- 文化系部活動の正顧問
- 運動系部活動の副顧問
- 文化系部活動の副顧問

11. あなたが顧問をする部活動の平日の活動日数はどの程度ですか。

- 0日
- 1日
- 2日
- 3日
- 4日
- 5日

12. あなたが顧問をする部活動の平日の平均活動時間はどの程度ですか。(活動時間を活動日数で割って算出してください。)

- 30分程度
- 1時間程度
- 1時間30分程度
- 2時間程度
- 2時間30分程度
- 3時間以上

13. あなたが顧問をする部活動の土日の活動日数はどの程度ですか。

- 0日
- 土日のいずれか1日
- 両日

14. あなたが顧問をする部活動の土日の平均活動時間はどの程度ですか。(活動時間を活動日数で割って算出してください。)

- 1時間程度
- 2時間程度
- 3時間程度
- 4時間程度
- 5時間程度
- 6時間以上

15. あなたは、※「栃木県学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」(または、各市町教育委員会が策定した方針)等に基づいた部活動の活動時間・休養日を把握し、遵守していますか。(※1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日(学期中の週末を含む)は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。週2日間の休養日を設ける。)

- 把握していない
- 遵守している
- ある程度遵守している
- あまり遵守していない
- 全く遵守していない

あなたの4月から6月までの各月の時間外在校等時間の合計(土日祝日を含む)は何時間何分でしたか。各月の在校等時間を「時間」と「分」に分けて入力してください。

※時間外在校等時間とは、在校等時間から正規の勤務時間(7時間45分)を引いた時間です。

入力例: 4月の在校等時間の合計が17時間30分の場合 → 4月の在校等時間の「時間」に「17」と入力、4月の在校等時間の「分」に「30」と入力

注意: 時間は0から300の半角数字で入力してください。分は0~59の半角数字数字で入力してください。

16. 4月の在校等時間の合計の「時間」 ※4月の時間外在校等時間の合計が「17時間30分」の場合、半角数字で17と入力

- 時間

17. 4月の在校等時間合計の「分」 ※4月の時間外在校等時間の合計が「17時間30分」の場合、半角数字で30と入力

- 分

18. 5月の在校等時間の合計の「時間」 ※5月の時間外在校等時間の合計が「20時間45分」の場合、半角数字で20と入力
○ 時間

19. 5月の在校等時間の合計の「分」 ※5月の時間外在校等時間の合計が「20時間45分」の場合、半角数字で45と入力
○ 分

20. 6月の在校等時間合計の「時間」 ※6月の時間外在校等時間の合計が「7時間5分」の場合、半角数字で7と入力
○ 時間

21. 6月の在校等時間の合計の「分」 ※6月の時間外在校等時間の合計が「7時間5分」の場合、半角数字で5と入力
○ 分

22. 令和8年4月から6月までの、あなたの時間外勤務の業務内容のうち、多かった業務を次の中から3つ以内で選択してください。

※ その他を選択した場合は、主なものを1つ記入してください。(例 行事の準備、提出物の確認 など)

- 教材研究・授業準備
- テスト作成・採点
- クラス・学年業務
- 部活動指導
- 児童・生徒指導
- 保護者対応
- 文書作成(報告書など)
- その他の分掌業務

23. あなたが、学校の業務の中で、特に負担に感じている業務は何ですか。主なものを3つ以内で記入してください。(例：部活動の大会が多い など)

※自由記述

| |
|--|
| |
|--|

24. 令和8年6月の平日、帰宅後に仕事をした時間の平均はどのぐらいですか。

- 1時間未満
- 1時間以上2時間未満
- 2時間以上3時間未満
- 3時間以上4時間未満
- 4時間以上5時間未満
- 5時間以上

25. あなたは、少なくとも45分の休憩時間を勤務時間内に確保できていますか。(手待ち時間は休憩時間には含まれません。)

※ 手待ち時間…使用者の指示があれば直ちに作業に従事しなければならないといった待機時間を指します。労働基準法34条第3校では「使用者は、(中略)休憩時間を自由に利用させなければならない。」ということが規定されており、形式上の休憩時間であっても業務と見なされる状態にあった場合は、使用者は、別途休憩を取得させる必要があります。

- 確保できている
- 確保できていない

26. あなたは、勤務間インターバル（終業から始業までに11時間以上の継続した休息時間を確保すること）を意識した出退勤をしていますか。

- している
- していない

27. あなたは、職場内において先に退勤する際に周囲への抵抗感なく退勤できていますか。

- いる
- いない

28. 貴校では、あなたが業務で忙しいときに、同僚からの協力を得られる雰囲気がありますか。

- ある
- ない

29. 貴校では、退勤時間を意識し、その時刻に間に合うように業務を精選・効率化するという意識が高まっていると思いますか。

- 高まっていると思う
- 高まっているとは思わない

30. 貴校では、教職員間で業務の適正化について意見しやすい雰囲気がありますか。

- ある
- ない

31. 貴校では、校務分掌等における業務分担の平準化が図られていますか。

- 図られている
- 図られていない

32. あなたは、自分の仕事が児童生徒の成長につながっていると実感していますか。

- 実感している
- どちらかと言えば実感している
- どちらかと言えば実感していない
- 実感していない

33. あなたは、教材研究や授業準備、児童・生徒指導に充てる時間を確保できていますか。

- 確保できている
- どちらかと言えば確保できている
- どちらかと言えば確保できていない
- 確保できていない

34. あなたは、学校等における業務改善に向けた取組によって、教材研究や授業準備、児童・生徒指導等に充てる時間が増加したと思いますか。

- 増加したと思う
- 増加したと思わない

35. 業務改善に向けた取組によって、何に充てる時間が増加しましたか。主なものを1つ選択してください。(質問31で「増加したと思う」を選択した方のみ回答します)

- 教材研究・授業準備
- テスト作成・採点
- クラス・学年業務
- 部活動指導
- 児童・生徒指導
- 保護者対応
- 文書作成（報告書など）
- その他の分掌業務

36. 「増加したと思わない」その理由があれば記入してください。(質問31で「増加したと思わない」を選択した方のみ回答します)

(例：業務改善を行い早く帰るようにしたので、教材研究等に充てる時間に回していない。)

※自由記述

37. あなたは、仕事と仕事以外の生活とのバランスに満足していますか。

- 満足している
- どちらかと言えば満足している
- どちらかと言えば満足していない
- 満足していない

38. 学校における働き方改革について、ご意見があれば記入してください。

※自由記述

学校における働き方改革実態調査結果分析業務委託仕様書における、クロス集計例

「学校における働き方改革実態調査結果分析業務委託仕様書」に記載のクロス集計、【複数の設問項目を組み合わせて行う集計及び分析並びにクロス集計表の作成をいい、特定の属性条件等による抽出又は層別を行ったものや、3変数以上の設問項目を用いたものを含む。】について、具体的には以下のような集計を指すものとする。

質問項目（１）～（４）に対し、

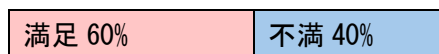
- （１） 勤務している学校種は？→小、中、高
- （２） 部活顧問をしているか？→YES、NO
- （３） 年齢は？→20代、30代、40代……
- （４） 現在のワークライフバランス（WLB）に満足か？→満足、不満

【例１】特定の属性条件等による抽出又は層別を行った上での集計の例

勤務している学校種（中学校・高等学校）で層別した上での「部活動顧問の有無」と「ワークライフバランス満足度」との関係についてクロス集計

<中学>

部活あり



部活なし

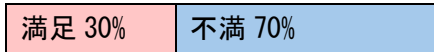


<高校>

部活あり



部活なし



【例２】3変数以上の設問項目を用いた分析の例

年齢区分・学校種・ワークライフバランス満足度の3つの設問項目を用いたクロス集計

| | 小学校 | 中学校 | 高校 |
|-----|--------|-----|-----|
| 20代 | 満足 20% | 40% | 20% |
| 30代 | 30% | 60% | 80% |
| 40代 | 50% | 25% | 70% |
| 50代 | 30% | 20% | 40% |
| 60代 | 10% | 10% | 5% |

※数値はすべてイメージであり、実際の分析では件数及び構成比（行%・列%等）は分析目的に応じて設定するものとする。